令和７年度　　日野市立 第二幼稚園　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和7年6月公表

#NAME?	人権尊重の精神を基盤に、すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力の基礎を育み、人間性豊かな幼児の育成を目指す。 〇よく遊ぶ元気な子　〇じっくり考え行動する子　〇豊かに感じて表現する子	★重点計画の概要
#### #NAME? #NAME? 【目指す教師像】	◆よく遊ぶ元気な子　（自分で決めた目標に向かって一生懸命取り組みやり抜く子ども） ◆じっくり考え行動する子　（自分たちで考え、伝え合い、葛藤を乗り越え協働する子ども） ◆豊かに感じて表現する子　（自分の思ったことや感じたことを安心して表現し、お互いの違いや個性を認め合う子ども） ◆笑顔と優しさがあふれる幼稚園　◆子どものことを第一に考えながら、子ども達全員の居場所と自分の力を発揮する場所となる幼稚園　◆保護者や地域の方と共に子どもを育てる幼稚園 ◆いのちを預かる責任をもち、一人一人の子どもに寄り添い、個々の発達に応じて適切に関わる教師 ◆子どもがわくわくどきどきしながら遊びたくなる活動をチームで創造し子どもとともに作り上げる教師	「一人一人の安定、充実から　つなげよう　いろいろな遊び、人との関わりの楽しさへ」プロジェクト 設定理由 ・やりたい遊びを見つけて遊ぶ幼児がいる一方で、自ら遊びを見つけにくい幼児、興味関心をもちにくい幼児もいる。また思いや考えをもちながら遊ぶ幼児がいる一方で、思いを表しにくい幼児もいる。まずは幼児一人一人が安心して過ごし、自分のやりたいことを十分楽しむ経験を重ねたうえで、いろいろな遊び、人との関わりへ向かえるよう、このプロジェクトを設定した。 内容 ①幼児の興味・関心に基づいた遊びや活動の提示 ②学年ごとの役割を意識した遊びや活動の提示 ③異年齢（3・4・5歳児、未就園児）での触れ合い活動や合同活動 ④他園児（第七幼稚園、近隣保育園）との交流活動・合同活動 ⑤小学生との交流活動 ⑥地域の方や保護者との触れ合い活動

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 取組指標	評価指標・評価基準 成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	生きる力の基礎となる知識や技能を活用するために思考力・判断力・表現力を高める	自分たちの生活がより広がるように、考えたり工夫したり挑戦したりなどの経験をしながら、興味・関心をもって活動に取り組む。	子供が自分の好きなことや得意なことを活かしながら、目的に向かって仲間と協力して取り組む活動を計画的に取り入れる。	４　子供が自分の力を活かしながら取り組めるような活動の指導を計画的に行うことが90%できた。	４　自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が90%いた。
				３　子供が自分の力を活かしながら取り組めるような活動の指導を計画的に行うことが80%できた。	３　自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が80%いた。
				２　子供が自分の力を活かしながら取り組めるような活動の指導を計画的に行うことが70%できた。	２　自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が70%いた。
				１　子供が自分の力を活かしながら取り組めるような活動の指導を計画的に行うことが70%未満だった。	１　自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が70%未満だった。
	“いのち”を大切にしようとする意識を高める	“いのち”や環境を守るために自分にできることを知り、必要な行動を実行・継続する。	小動物・植物の世話を通して、命をつなぐ体験を行う。 野菜くずを生かした土つくりを通じてSDGｓに関わる活動を行う。	４　“いのち”や環境に関わる活動計画をすべて実施することができた。	４　意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が８０%いた。
				３　“いのち”や環境に関わる活動計画を９０%以上実施することができた。	３　意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が７０%いた。
				２　“いのち”や環境に関わる活動計画を８０%以上実施することができた。	２　意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が６０%いた。
				１　“いのち”や環境に関わる活動計画を８０%未満しか実施できなかった。	１　意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が６０%未満だった。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	一人一人のニーズに応じた教育環境の充実を図る	子供たち一人一人が個性を発揮する喜びや、友達と一緒に生活する喜びを感じる。	子供の発達の特性や個性など、実態の把握に努めるとともに、言動や内面、心の動きについて、全職員で意見交換・情報交換を行うことで幼児理解を深め、指導体制を充実させる。	４　職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に３回以上行った。	４　自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が９０%いた。
				３　職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に３回行った。	３　自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が８０%いた。
				２　職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に２回行った。	２　自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が７０%いた。
				１　職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に1回行った。	１　自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が７０%未満だった。
	園内での異年齢交流を通して、遊びの充実、人と関わる力を育む	一人一人が遊びの幅を広げたり、深めたり、友達と関わることを楽しんだりする。	４・５歳児が一緒に楽しめる遊びや活動、生活するための環境構成や教師の援助を探り、交流活動を充実させる。	４　園内での異年齢の交流活動を計画の９０%行うことができた。	４　遊びや活動を十分楽しみながら異年齢での生活を送ることができた幼児が９０%いた。
				３　園内での異年齢の交流活動を計画の８０%行うことができた。	３　遊びや活動を十分楽しみながら異年齢での生活を送ることができた幼児が８０%いた。
				２　園内での異年齢の交流活動を計画の７０%行うことができた。	２　遊びや活動の楽しさを十分感じながら異年齢での生活を送ることができた幼児が７０%いた。
				１　園内での異年齢の交流活動を行ったのが計画の７０%未満だった。	１　遊びや活動の楽しさを十分感じながら異年齢での生活を送ることができた幼児が７０%未満だった。
社会と未来に開き、みんなでつくる	地域の方や保護者を活用した体験の場を通して、多様な立場の人の存在を知り、関わりかたを学ぶ。	地域の方や保護者の協力を得た多様な体験の中で、喜びや感謝の気持ちを通して、多様な人との関わり方を知る。	子供が喜びや感謝の気持ちをもち、進んで取り組むことができるような活動を、地域の方や保護者と協同して計画する。	４　子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたくなる活動の計画をすべて行うことができた。	４　地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が９０%いた。
				３　子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたくなる活動の９０%行った。	３　地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が８０%いた。
				２　子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたくなる活動の８０%を行った。	２　地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が７０だった。
				１　子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたくなる活動は８０%未満だった。	１　地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が７０%未満だった。
	地域にある教育機関との関わりを通して、様々な体験をする。	他の教育機関との関わりの中で、様々な人と遊ぶことを楽しみながら活動に参加する。	幼稚園、保育園、小学校などの諸機関との連携や、地域の子育て支援としての未就園児交流の機会など、継続した交流を行う。	４　他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画通りに行った。	４　様々な人と一緒に遊ぶことを楽しみながら、交流活動に参加した幼児が９０%以上いた。
				３　他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画の９０%行った。	３　様々な人と一緒に遊ぶことを楽しみながら、交流活動に参加した幼児が８０%以上いた。
				２　他の教育機関や未就園児などとの交流活動を計画の８０%行った。	２　様々な人と一緒に遊ぶことを楽しみながら、交流活動に参加した幼児が７０%以上いた。
				１　他の教育機関や未就園児などとの交流活動を行ったのが計画の８０%未満だった。	１　様々な人と一緒に遊ぶことを楽しみながら、交流活動に参加した幼児が７０%未満だった。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。